

やさしい病害虫講座 25

「堅い葉もなんのその、 つばき・サザンカの害虫」

木村 裕

【もち病】

名前の通り、葉っぱがお餅のように膨れる病気です。花が終わって4月になると、新しい枝が伸びだし新葉もつぎつぎに開いてきますが、その一部の枝先の新葉が耳たぶのように厚く大きくなります。黄緑色ですが、ときには赤く色づくこともあります。放置すると灰色になり最後には枯れてしまいます。

発生は一部の枝の先に現れる程度で実害はないと思いますが、あまり気持ちのよい物でもありませんので、気づいたら鋏で切り取りましょう。



【チャドクガ】

もっとも厄介な害虫で、葉を齧られる被害もさることながら幼虫の毒毛による被害が甚大です。

成虫は黄色または暗褐色の蛾で、大きさはモンシロチョウの半分くらいの大きさです。幼虫は黄褐色の地に黒紋を散らせた美人の毛虫で、主として葉の裏側に一行を行儀よくならんで裏面をなめるように齧ります。そのため被害を受けた部分は黄色の斑紋になります。この症状が発生確認のポイントにもなります。

毛虫の毛には毒があり、皮膚につくと赤く腫れあがり非常にかゆく、七転八倒の苦しみを味わうこととなります。毛虫に直接触れるのはもちろんのこと、葉裏に残された脱皮殻、成虫の蛾（成虫になったときに幼虫時代の毛を体につけている）

に触れてもかぶれます。また、葉に残された脱皮殻に付着した毛は風で飛び散りますので、風下にも危険です。葉が食われてぼろぼろになっているようなサザンカの垣根には近づかないこと。

毛虫の発生は5月の連休～6月と、8月中頃～9月の2回あります。春に発生した樹では夏にも発生する確率が高いので注意しましょう。

薬剤を散布しても死骸が葉にぶら下がって残りますので、最もよい防除法は注意深く被害葉のある枝を虫ごと切り取ることです。



【チャノキイロアザミウマ】

夏に先端の葉に黒褐色の汚れや傷が発生するのは、この虫によって汁を吸われたせいです。非常に小さな虫ですので見つけることは不可能でしょう。成虫も幼虫も柔らかい新芽が大好きで、歯で葉の表面を傷つけ、しみ出る汁を吸いますのでその傷跡が褐色になって残ります。



【コミカンアブラムシ】

新芽や新葉に群がっている黒い虫です。いつも親子ともども一緒になって汁を吸っていますが、実被害は小さいので無視しましょう。